

長谷川鉄工

冷凍機販売、漁船用が続伸

製氷設備の冷熱エンジンに勢い



小野 良二社長

比2倍増に迫る勢いがある。業績の安定感が同社製冷凍機の高品質と冷熱エンジンラインの信頼性を裏付ける。

長谷川鉄工は1921年に国内第一号の冷凍機

を国内投入した先駆的冷凍機メーカー。90年以上続く冷凍機製造・販売に加え、現在は自社製冷凍機を使用した大型冷凍冷蔵倉庫、冷熱エンジンなどの設備設計・施工も手掛ける。冷熱販売は国内・海外共に漁船向けの出荷台数が続伸。冷熱エンジンラインでは国内の製氷プラントの製氷設備施工案件が好調に推移する。旧来の設備ユーザーに納めた食品加工・保存用途での冷凍冷蔵設備（冷設）のメンテナンスから派生した設備のオプションメニューにも対応、顧客満足度を向上させている。海外のエンジニアリングではタイで大型低温物流倉庫の冷設を設計して今年3月にオープンを迎えた。これらの要因で今期（2014年9月期）の着地見通しは前期

比2倍増に迫る勢いがある。業績の安定感が同社製冷凍機の高品質と冷熱エンジンラインの信頼性を裏付ける。長谷川鉄工は1921年に国内第一号の冷凍機を国内投入した先駆的冷凍機メーカー。90年以上続く冷凍機製造・販売に加え、現在は自社製冷凍機を使用した大型冷凍冷蔵倉庫、冷熱エンジンなどの設備設計・施工も手掛ける。冷熱販売は国内・海外共に漁船向けの出荷台数が続伸。冷熱エンジンラインでは国内の製氷プラントの製氷設備施工案件が好調に推移する。旧来の設備ユーザーに納めた食品加工・保存用途での冷凍冷蔵設備（冷設）のメンテナンスから派生した設備のオプションメニューにも対応、顧客満足度を向上させている。海外のエンジニアリングではタイで大型低温物流倉庫の冷設を設計して今年3月にオープンを迎えた。これらの要因で今期（2014年9月期）の着地見通しは前期

漁船用冷凍機の出荷台数が好調に推移する。国内出荷台数も漁船向けは好調。海外向け出荷台数と合わせて続伸しており、全体業績をけん引している。

冷熱エンジンラインは昨年から今年にかけて、顧客がタイで収容能力2万7千トンの大型低温物流倉庫を建設する案件を受け、求められるスピードの冷設を長谷川鉄工が設計・施工し、昨年末に完工して今年3月にオープンを迎えた。同案件での売り上げも今期業績アップ要因の一つ。それ以外のエンジンラインは今期、国内市場に比重を置いて展開受注を積み重ねる。小野社長は「国内でのコンニエ向け食用水の需要が高まっているのを受け、製氷プラントの新設、増設、改修などの案件が工場

「国内でのコンニエ向け食用水の需要が高まっているのを受け、製氷プラントの新設、増設、改修などの案件が工場設備施工で売り上げが伸び、コンニエの割強を占める。製氷プラントの設備投資は来期以降も続く」とみている」と話す。

同社は自社製冷凍機を用いた食品加工・保存技術でもこれまで豊富な実績を残してきた。アイスコーヒージャキ氷に使用される食用水製造プラントの製氷設備をはじめ、アイスキャンデーの凍結、高野豆腐の凍結、焼酎製造時の冷却、コロッケやミンチカツなど冷凍食品の凍結、ケーキなど洋菓子の凍結用途などで冷設施工時に冷凍機応用技術を生かしている。

冷設については、自然冷媒のアンモニアを使用した設備の設計・施工に強みを見せる。アンモニアは大量漏えいすると人体に危険を及ぼす恐れのある物質だが、同社は創業当初からアンモニア冷媒を主力とし、90年以上の経験を活かしてきた。アンモニア冷媒の漏えいを防ぐ多様な技術、ノウハウがあり、安全管理を前提に、地球環境にもやさしく冷設の高効率化に貢献するアンモニア冷媒の採用を推奨している。万一の事態が発生した場合の保全策として低温施設用のアンモニア漏えい対策システム「アンモニア・ディテクト&リカバリ」システムを11年に開発。冷凍冷蔵庫内でアンモニアが漏えいした場合、冷凍機とクーラーを結合送液配管の送液電磁弁を閉鎖し、冷凍機を

冷媒回収運転に切り替える制御システムを実用化した。これにより設備の安全性を二層担保した設備を提案できる点も、アンモニア冷媒のエキスパートらしさが光る。ただ冷媒選定に関してアンモニアによる直立式システムに偏重した提案はしない。冷設で近年トレンド化するアンモニアCO₂システムの性能検証も本社工場内にある環境試験室で実施中だ。顧客が求める性能を出せる冷媒選定を最優先とし、さまざまな可能性を試行している。「ユーザーが求める多様な冷媒種に対応できる技術と知見を持つた上で、当社は自然冷媒のアンモニアの優れた性能を周知していきたい」とした。

冷媒回収運転に切り替える制御システムを実用化した。これにより設備の安全性を二層担保した設備を提案できる点も、アンモニア冷媒のエキスパートらしさが光る。ただ冷媒選定に関してアンモニアによる直立式システムに偏重した提案はしない。冷設で近年トレンド化するアンモニアCO₂システムの性能検証も本社工場内にある環境試験室で実施中だ。顧客が求める性能を出せる冷媒選定を最優先とし、さまざまな可能性を試行している。「ユーザーが求める多様な冷媒種に対応できる技術と知見を持つた上で、当社は自然冷媒のアンモニアの優れた性能を周知していきたい」とした。

冷媒回収運転に切り替える制御システムを実用化した。これにより設備の安全性を二層担保した設備を提案できる点も、アンモニア冷媒のエキスパートらしさが光る。ただ冷媒選定に関してアンモニアによる直立式システムに偏重した提案はしない。冷設で近年トレンド化するアンモニアCO₂システムの性能検証も本社工場内にある環境試験室で実施中だ。顧客が求める性能を出せる冷媒選定を最優先とし、さまざまな可能性を試行している。「ユーザーが求める多様な冷媒種に対応できる技術と知見を持つた上で、当社は自然冷媒のアンモニアの優れた性能を周知していきたい」とした。

冷媒回収運転に切り替える制御システムを実用化した。これにより設備の安全性を二層担保した設備を提案できる点も、アンモニア冷媒のエキスパートらしさが光る。ただ冷媒選定に関してアンモニアによる直立式システムに偏重した提案はしない。冷設で近年トレンド化するアンモニアCO₂システムの性能検証も本社工場内にある環境試験室で実施中だ。顧客が求める性能を出せる冷媒選定を最優先とし、さまざまな可能性を試行している。「ユーザーが求める多様な冷媒種に対応できる技術と知見を持つた上で、当社は自然冷媒のアンモニアの優れた性能を周知していきたい」とした。

冷媒回収運転に切り替える制御システムを実用化した。これにより設備の安全性を二層担保した設備を提案できる点も、アンモニア冷媒のエキスパートらしさが光る。ただ冷媒選定に関してアンモニアによる直立式システムに偏重した提案はしない。冷設で近年トレンド化するアンモニアCO₂システムの性能検証も本社工場内にある環境試験室で実施中だ。顧客が求める性能を出せる冷媒選定を最優先とし、さまざまな可能性を試行している。「ユーザーが求める多様な冷媒種に対応できる技術と知見を持つた上で、当社は自然冷媒のアンモニアの優れた性能を周知していきたい」とした。

冷媒回収運転に切り替える制御システムを実用化した。これにより設備の安全性を二層担保した設備を提案できる点も、アンモニア冷媒のエキスパートらしさが光る。ただ冷媒選定に関してアンモニアによる直立式システムに偏重した提案はしない。冷設で近年トレンド化するアンモニアCO₂システムの性能検証も本社工場内にある環境試験室で実施中だ。顧客が求める性能を出せる冷媒選定を最優先とし、さまざまな可能性を試行している。「ユーザーが求める多様な冷媒種に対応できる技術と知見を持つた上で、当社は自然冷媒のアンモニアの優れた性能を周知していきたい」とした。

冷媒回収運転に切り替える制御システムを実用化した。これにより設備の安全性を二層担保した設備を提案できる点も、アンモニア冷媒のエキスパートらしさが光る。ただ冷媒選定に関してアンモニアによる直立式システムに偏重した提案はしない。冷設で近年トレンド化するアンモニアCO₂システムの性能検証も本社工場内にある環境試験室で実施中だ。顧客が求める性能を出せる冷媒選定を最優先とし、さまざまな可能性を試行している。「ユーザーが求める多様な冷媒種に対応できる技術と知見を持つた上で、当社は自然冷媒のアンモニアの優れた性能を周知していきたい」とした。

冷媒回収運転に切り替える制御システムを実用化した。これにより設備の安全性を二層担保した設備を提案できる点も、アンモニア冷媒のエキスパートらしさが光る。ただ冷媒選定に関してアンモニアによる直立式システムに偏重した提案はしない。冷設で近年トレンド化するアンモニアCO₂システムの性能検証も本社工場内にある環境試験室で実施中だ。顧客が求める性能を出せる冷媒選定を最優先とし、さまざまな可能性を試行している。「ユーザーが求める多様な冷媒種に対応できる技術と知見を持つた上で、当社は自然冷媒のアンモニアの優れた性能を周知していきたい」とした。

冷媒回収運転に切り替える制御システムを実用化した。これにより設備の安全性を二層担保した設備を提案できる点も、アンモニア冷媒のエキスパートらしさが光る。ただ冷媒選定に関してアンモニアによる直立式システムに偏重した提案はしない。冷設で近年トレンド化するアンモニアCO₂システムの性能検証も本社工場内にある環境試験室で実施中だ。顧客が求める性能を出せる冷媒選定を最優先とし、さまざまな可能性を試行している。「ユーザーが求める多様な冷媒種に対応できる技術と知見を持つた上で、当社は自然冷媒のアンモニアの優れた性能を周知していきたい」とした。

冷媒回収運転に切り替える制御システムを実用化した。これにより設備の安全性を二層担保した設備を提案できる点も、アンモニア冷媒のエキスパートらしさが光る。ただ冷媒選定に関してアンモニアによる直立式システムに偏重した提案はしない。冷設で近年トレンド化するアンモニアCO₂システムの性能検証も本社工場内にある環境試験室で実施中だ。顧客が求める性能を出せる冷媒選定を最優先とし、さまざまな可能性を試行している。「ユーザーが求める多様な冷媒種に対応できる技術と知見を持つた上で、当社は自然冷媒のアンモニアの優れた性能を周知していきたい」とした。



冷設を施工した低温物流倉庫の荷さばき室



冷凍機組み立て作業

人材採用方針にもテコ入れ 育成重視姿勢が効果生む

長谷川鉄工の事業展開に加速を伴った背景には、人材採用と社員育成制度のテコ入れで人員強化が図られた効果も一因に挙げられる。小野社長は昨年10月に社長に昇格する以前、同社で取締役管理部長兼企画室長の職に就いていた。11年に管理部長に就任した当初は人材採用と社員育成の方針に疑念を抱き、自ら改善に乗り出したという。技術畑出身者が多い当社の採用面接は、これまで応募者の中から社長まで応募者を持ち長谷川鉄工に採用された後、すぐ有言実行に移した。

採用面接では応募者との親和性を前面に出す手法に切り替え、人員配置についても新入社員に無理のない配置・留置するなど、育成に本腰を入れ始めた。その結果、即戦力級の新社員を含めて直近3年間で同社に入社した社員は皆、現職にある。入社3年以内での退職者が減ったことで全社員数が15人程度増加し、施工現場での人材不足がさやかれる中で大きな効果を生んでいる。「今年に入って『応募者が退職しない企業』として求人広告会社が取材に来るようになった。小野社長は改善効果に手応えを得ている様子だ。